
つごもりの恋

笑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

つごもりの恋

【Nコード】

N8730I

【作者名】

笑

【あらすじ】

部活命のカナ。

ある日、貴方に一目惚れをしたしまった。

あの日からカナの毎日とは違う意味を持つてしまった。

素直になりたいのに、なかなか素直になれないカナ

高校生活はたった3年。

貴方は一つ上の先輩。

関わり合える時間は2年……。

。そんなせっぱ詰まった力ナの高校生活はどう変わって行くのか・・・

（前書き）

これは著者本人のノンフィクションストーリーです。

r e a lな話で今も進行中・・・。

笑わず真剣にご覧ください。

高校2年のカナは去年の夏の初めに恋をした。

スポーツ推薦でK高校に入学したカナは部活命の女子高校生。
毎日、部活部活で恋なんて無縁で考えもなかったのに……。
あの夏の初め、貴方に会ってしまった。

入学して高校生活にも慣れ、今まで通り部活をしているカナ。
今日は隣のコートで男バスが部活をしている。
いつも通りの部活で
いつも通りボールを必死に追いかけるカナ。

そんな今日、男バスの方へボールが行き、それを追いかけると案の
定、突っ込んだ……。
「痛ったー」

「大丈夫ですか？ すいません！」

男の人の低い声。
必死に謝ってくる。

カナは恥ずかしさで前が見れず下を向いたまま
「すいません。大丈夫です」

と一言言ってすぐさまその場立ち上がり立ち去った。

少しして、男バスの方を見てみると、さっきぶつかった人を見つけた。

彼の名前は「出口」

一つ上の男バスの部員。

出口くんはとても特徴的な動きをする。
シュートのフォームも人と違い目立つ。
歩き方も走り方も何もかもが特徴的。

そんな出口くんを見てカナは笑った。

出口くんを見つける度笑った。

そんな出口くんをカナは無意識にいつも探していた。

ある日いつものように出口くんを見つけて笑っていたら
バレーぶレイが

「カナさー」

出口くんのこと好きなんじゃない？」

「は！？なんで??」

「だって、出口くん佐探してるカナ楽しそうだし、
見つけた時の喜びハンパないもん」

「……。」

今までなんにも思ってたのに……。

確かにK高校でいつも見たい、会いたいと思うのは
……。

出口くんだ……。

この時、初めて出口くんが好きだと気づいた。

出口くんを好きだと気づいた日から

今まで以上に探して、見つけて、ドキドキした。

そんな出口くんへの想いがどんどん膨らみ

どうにかして関わりたいと思うようになった。

そんな悩みを部活の先輩に話すと先輩は出口くんにアドを聞いてくれた。

出口くんとメールが始まる。

出口くんとメールは楽しい。

続くし、話題も振ってくれる。

楽しくて楽しくてたまらなかった。

そんなメールをしているさらに想いは膨らみ

話してみたくなった。

だけどカナには話しかける勇気がない……。

月日が経ち

もう冬になってしまった。

もうすぐバレンタイン季節。

カナはこのバレンタインをチャンスに想いを伝えたいと考えた。

バレンタインの前日、出口くんにメールをした。

17時の学校近くの土手で待ち合わせの約束をした。

当日

約束の時間に約束の場所に着いた。

カナの緊張はピークな達した。

まだ出口くんはいなかったので、カナは土手を少し歩いた。

そーすると出口くんからメールが来た。

「俺、場所間違えた？」

カナは土手をどんどん歩いていて約束の場所から離れてた。

「間違っています。」

アタシが少し歩いてて・・・。

今からそっちに向かいます」

「なんだ（笑）

俺も行くわ」

待ち合わせの場所へ向かうと少し遠くから出口くんの姿が見えた。

どんどん近くなっていく。

会えた

「こんにちは．．．。」

「こんにちは」

初めての会話

「これ．．．作ったんで、良かったらどうぞ」

カナはバレンタインのケーキをあげた

「ありがとう」

それから少し歩きながら沢山の話を話した。

周りも暗くなり

2人は別れた

カナは出口くんに想いを伝えることができなかった。

でも、出口くんのことが今まで以上に好きになった。

思ってたより背がおつきいんだな

思ってたより声低いな

少しずつ本物の出口くんを知っていった。

初めての会話は一生忘れることはないだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8730i/>

つごもりの恋

2011年10月6日06時50分発行